

令和7年度 ねりま協働ラボ未来創造チャレンジ 審査委員コメントシート

事業名	「それぞれの居場所」届ける情報・繋がる練馬
実施団体	こどもまんなかネットねりま

1 取り組み内容の意義・工夫

本事業は、支援を必要とする子どもや家庭に情報が十分に届いていないことや、行政と民間団体の連携がうまくとれていないという課題を地域で日頃から活動しているからこそ捉えられた取り組みであり、意義深いものだと感じました。行政と民間団体が対等な立場で参加できるトークセッションを継続的に行い、テーマごとに課題や現状を共有したことは、関係者同士の理解を深め、信頼関係を築く取り組みです。また、傍聴者を行政職員とこまねり登録団体に限定したことで、本音で意見交換ができる環境を整えるなど、対話の質を高める工夫も感じられました。

2 今年度の成果・協働の効果

今年度は、トークセッションを通じて、行政職員と民間団体の間に顔の見える関係が生まれ、官民連携が実際の行動として動き出した一年であったといえます。また、区のホームページへ取材記事を掲載したことにより、登録団体の認知度向上や情報の広がりといった成果も確認できました。こうした取り組みは、単独では実現が難しく、区との協働によって可能にした好事例であり、協働の効果は高いと思われます。

3 今後への期待

今後は、現在構築されつつある官民の関係性を、相談や支援につながるより具体的な仕組みへと発展させていくことが期待されます。保護者や当事者のニーズを的確に把握し、必要な情報を分かりやすく届ける工夫を重ねることが重要です。また、相談件数の増加を見据え、相談窓口の体制整備や、各団体の対応力向上にも引き続き取り組んでいくことが望まれます。

4 自由記述

行政と民間団体が立場の違いを越えて同じ方向を向き、対話を大切にしながら進めてきた点は大変評価できる取り組みです。本事業で生まれたつながりが、今後さらに具体的な支援や情報発信へと結びつき、より多くの子どもや保護者に届くことを期待しています。